

第455回鉄鋼流通問題懇談会

2021年10月27日（水）14：30
茅場町「鉄鋼会館802+803+804」

議 題

1. 配布資料説明（全鉄連）
2. 全鉄連情勢報告
 - (1) 地区の状況
 - 東京、大阪地区概況報告
 - (2) その他地区の概況
 - 鉄流懇10月例会で発表の各地区業況アンケート結果
 - (3) 総括：阪上全鉄連会長
3. 意見交換
4. 経済産業省挨拶
5. 鉄流懇会長挨拶
6. その他

○次回以降会議予定

2022年1月27日（木）14：30～

於：茅場町「鉄鋼会館701号室」

鉄鋼流通問題懇談会 品種別動向について(2021年10月)

	鋼管	薄板	厚板	棒鋼・形鋼
	伊藤忠丸紅鉄鋼	岡谷鋼機	JFE商事	エムエム建材
1. 需給動向(景況感)	店売りはコロナ影響が大きかった昨年比では増となるも、19年比では1割減で、やや低調な荷動き状況が続いている。 建築需要は物流倉庫やデータセンター首都圏再開大型案件はあるものの、中小案件は少なく需要は二極化している。また一部鉄骨用鋼材の入手難から工期後ろ倒しとなり、需要は下期後半にずれ込む形となっている為、秋需は見込めていない状況。斯様な状況下ではあるもののコイル不足により鋼管の需給は締まっており、各特約店はメーカー値上げの転嫁を着実に進めている状況。	2021年8月末薄板3品在庫は、409.5万トンで、14カ月ぶりに400万トンを超え前月比でプラス21.1万トンであった。 メーカー在庫は185.8万トンで前月比プラス9.6万トン、問屋在庫は85.2万トンで先月比プラス6.9万トン、コイルセンター在庫は138.6万トンで前月比プラス4.6万トンであった。 品種別では熱延鋼板が195.6万トン(先月比プラス9.1万トン)冷延鋼板が92.1万トン(同プラス4.2万トン)、表面処理鋼板が121.8万トン(同プラス7.8万トン)、在庫率では、熱延鋼板が2.63カ月(7月度2.51カ月)、冷延鋼板が2.99カ月(同2.7カ月)、表面処理鋼板が2.01カ月(同1.84カ月)であった。自動車メーカーの減産により、3品在庫は400万トンを超えたが、全国コイルセンターの出荷量は自動車以外の分野が牽引する事で高い水準を継続している。	2021年8月末の全国厚中板在庫は354.6千トン(前月比▲0.9%、▲3千トン)。稼働日減により入出荷量ともに減少となったが、出荷量が入荷量を上回ったため在庫量は減少した。在庫率は243%(同+18ポイント)と依然適正200%に比べ高い状況が続く。生産拠向けについては輸出中心に堅調ではあるが、今後部品調達ネックによる大手メーカーの生産調整が懸念される。建築も物流倉庫や大型再開案件が堅調に推移しており、橋梁も耐震補強案件が安定的に出件している。中小型案件は工事の延期や中止が散見されるが各シェアの操業は概ね70-80%回復している。一方で供給面については依然ミルの受注制限や長工期化によりタイトな状況が続いているため、今後暫くは在庫減少傾向となる見通し。	棒鋼:首都圏に於いて、マンション需要も昨年比で回復がみられ、再開案件や物流倉庫案件等も継続的に出件していることもあり、メーカーの生産は一定水準を確保している。コロナ禍からの世界的な鉄鋼需要の復調などから、原料鉄スクラップ価格の上昇に加えて、諸コストの上昇も強まっており、メーカーは採算の改善が急務な状況となっている。 形鋼:日形鋼に關し、2021年度(4-9月)のときわ会ベース全国在庫量は71.3千トン/月と、前年同期比+1.3%のレベルで推移している。建築着工統計によると今後、若干の回復の期待も持てる状況。棒鋼同様に原料高騰等により、メーカー/流通共に採算改善が急務な状況。
2. 需要産業動向	<建築・土木>8月の新設住宅着工戸数は、前年同月比7.5%増の7万4,303戸で2カ月連続の増加。一方民間非居住用建築物の着工延床面積は277万m ² と前年同月比15.0%減。事務所及び店舗は増加したが工場及び倉庫は減少した。全建築物では、着工床面積は954m ² と前年同月比1.3%増となった。 <自動車>8月の国内生産台数は、前年同月比13.7%減の48万台だった。半導体不足影響の減産が続いている。下期で挽回する計画ではあるが、先行きは不透明。 <建機>8月の建設機械出荷金額は、内需5.8%増の744億円、外需93.3%増加の1,343億円となり、外需は10カ月連続の増加となった。総合計では49.3%増加の2,086億円となり、10カ月連続の増加となっている。 <造船>8月の鋼船受注・造船実績は、受注17隻、起工13隻、竣工19隻、竣工船価806億円(前年同月比27.5%増)であった。	2021年9月度の国内普通自動車販売台数は31.8万台で、前年同月比67.8%で、3か月連続で前年を下回った。 内軽自動車は11.3万台で前年同月比64.1%で、4か月連続で減少した。 2021年8月度の民生用電機機器の国内出荷金額は1,740億円で前年同月比82.2%であった。 製品別ではホームエアコンは473億円(前年同月比64.3%)で3か月連続のマイナス。電機冷蔵庫は362億円(前年同月比83.9%)で3か月連続でマイナス。電機洗濯機は299億円(前年同月比98.8%)となり2か月連続のマイナスであった。 2021年8月度の新設住宅着工戸数は7.4万戸(前年比107.5%)持家は前年同月比114.5%(10カ月連続増加)、貸家は同103.8%(6か月連続増加)分譲は同105.3%と2か月連続の増加であった。	国内造船所の輸出船契約実績は21年9月940千G/T(前年同月比±0%、前月比▲23%)、2021年度上期(実績)は12,210千G/T(前年同期比+2.5%)。世界的な経済活動の回復により海上荷動きは急増し、バルク・コンテナ船の需要が急増している。21年9月の輸出船手持工事量は17,750千G/T(前年同月比+23%、前月比▲0.2%)、20年の年間竣工量をベースにすると約1.6年分まで回復。建設機械の8月出荷金額の内需が743億円(前年同月比+5.8%)、外需は1,343億円(同+93.3%)、総合計では2,086億円(同+49.3%)、10ヶ月連続で増加。オセアニア、欧州、北米、アジアなど中心に外需は全地域で増加となり全体を押し上げた。 産業機械の8月受注金額の内需が2,410億円(前年同月比+1.4%)、外需は1,630億円(同▲34%)、総合計で4,040億円(同▲17%)。機種別ではプラスチック加工機械および環境機械など計7機種で増加となったが、ボイラ・原動機および化学機械など計4機種が大幅に減少したため、総合計では4ヶ月ぶりの減少となった。	棒鋼:不動産経済研究所による首都圏マンション販売戸数に關して、最初の緊急事態宣言中に供給が大きく落ち込んだ反動もあり、2021年1-6月の販売は約13,300戸と前年同期比では77.3%増となっている。7-12月の供給も約19,000戸の見込であることから2年ぶりに30,000戸台への回復が期待される。 形鋼:建築に關し、2021年度(4-8月)の換算鉄骨量(推定)は191万トン(前年同期比+8.9%)となり、通期では2019年度並み(450万トンレベル)が期待できる水準となっている。再開案件や物流倉庫案件を中心とした大型案件の増加に加えて、小規模案件に於いても前年同期比+6.2%となっている事から、市中の荷動きについても、今後若干の期待も持てる状況。
3. 輸出入動向	2021年8月鋼管輸出量 継目無鋼管:2万1,639トン(前月比+64.7%) 溶接継ぎ鋼管:2万2,112トン(前月比▲8.5%) 2021年8月鋼管輸入量 継目無鋼管:1,282トン(前月比▲4.9%) 溶接継ぎ鋼管:7,361トン(前月比▲42.5%)	2021年8月度の薄板3品輸入通関実績は20.2万トンであった。品種別では熱延広幅帯鋼が8.1万トン(先月比マイナス0.8万トン)冷延広幅帯鋼が6.9万トン(先月比同)亜鉛メッキ鋼板が5.2万トン(先月比マイナス1.3万トン)、一方薄板3品輸出通関実績は130.9万トンであった。品種別では熱延広幅帯鋼が93.1万トン(先月比マイナス2.9万トン)、冷延広幅帯鋼が17.6万トン(同マイナス1.3万トン)亜鉛メッキ鋼板が20.2万トン(同マイナス0.6万トン)であった。	21年8月の輸入通関実績は27千トン(前月比▲16%、▲5千トン)。韓国が23千トン(同▲39%、▲6千トン)、中国が2千トン、台湾が2千トン。前年同月比では▲35%と4ヶ月連続で減少した。 8月の鉄鋼輸出実績は220千トン(前月比▲7%)。韓国が88千トン(同+44%)、台湾が27千トン(同+106%)、タイが8千トン(同+10%)と増加、中国は57千トン(同▲36%)と大幅減。前年同月比では+13%と5ヶ月連続の増加となった。	棒鋼:2021年度4-7月の小形棒鋼輸出量は42.5千トン/月と前年同期比+100%、輸入量は3千トン/月と前年同期比ほぼ横ばいになった。 形鋼:2021年度4-7月の日形鋼輸出量は19千トン/月と前年同期比▲38%、輸入量は3.6千トン/月と前年同期比▲46.7%となった。
4. 海外市場動向	<油井管>油価はWTI・ブレントとも\$80/バレル台を維持しており、また天然ガスの価格が\$150を超えているが、中長期のRenewal Energyへの転換による需要増が期待できないことや投資系FundがOil & Gasへの資金投下を絞っていることから、油価・ガス価に対して掘削活動が戻って来ていない。ただし、現在の油価・ガス価のレベルが長期間続く場合は、Renewal Energyへの転換を進めながらもベースロードの重要に対する安定供給を担うということで、特にガス開発が進むことを期待される。<ラインパイプ>カタル(Europipe 15万トン、Tenaris 20万トン)、豪州(Europipe 28万トン、内定)等大型案件の買付けが相次ぐ。これら'22-'23年製造案件の他にも豪州、東南アジア、中東、北米を中心に今後も大型案件の入札が控えている。'21年度は低調のまま。カーボンニュートラルの流れもあるが、当面天然ガス開発は活況となる見通し。	世界鉄鋼協会は世界鉄鋼需要見通しについて、2021年度は、4月に示した5.8%増から下方修正し、4.5%増の18.6億トンになる見通しを発表した。 最大消費国である中国国内の不動産問題や二酸化炭素削減への取り組みなどによる影響を考慮した見通し。 また、世界的なコロナ感染拡大、米中貿易摩擦などのリスクは依然内包している。	韓国メーカー3社の21年1-9月の販売量は6,507千トン(前年同期比▲1.6%)、国内販売量は4,973千トン(同+7.1%)と増加したが、輸出版売量は1,534千トン(同▲22%)と大幅に減少した。コロナ禍からの回復により造船メーカーの需要が増加、また中国材を中心に輸入量が減少したため国内向け販売量は増加となった。国内向け需要増により市況価格も高騰したことで輸出向けの販売は減少した。中国も過剰生産能力の削減や、二酸化炭素(CO2)の排出量抑制を目的に21年7月以降粗鋼生産量は減少。21年9月の粗鋼生産量は7,375万トン(前年同月比▲21.2%)と20年3月以降の8,000万トン割れとなった。10月以降も減産継続方針により需給タイトが続く、国内外ともに市況価格は強含みで推移する見通し。	中国:中国政府の減産政策により同国の粗鋼生産は着実に減少しており、鋼材需給の引き締まりが継続している。加えて秋の需要に向けた期待感も高まり鋼材価格は反転の兆しを見せている。また、粗鋼生産減少により中国の輸出市場での存在感は薄まり、周辺各国への影響は必至であり、継続的に鋼材需給の引き締まりが続くと予想される。 ASEAN:足元はCOVID-19の流行で需要が低調であったが、足元復調の兆しあり、各鋼材価格は反転の動きを見せている。 北米:足元少し軟化している傾向があるが、昨年から歴史的な値上がりを経てきた鋼材価格は依然高止まりしている。秋需に向けて大きな下落は見込まず引き続き高位に推移する見通し。

鉄鋼流通問題懇談会（2021年9月）

発表者 発表項目	メーカー JFEスチール
1. 需給動向（景況感）	<p>（国内）・9月の日銀短観では企業の景況感を表す業況判断指数（DI）が大企業・製造業で+18と前回6月調査から+4ポイントとなり、5期連続で改善となった。素材産業の回復が見られる一方で、半導体不足影響と東南アジアでのコロナ再拡大を背景とした部品供給制約を受けた自動車では悪化した。先行きについては+14と4ポイントの悪化。今後の感染状況、中国不動産問題など海外景気の先行き、半導体不足の影響など不透明な要因も多く、先行きに対して慎重な企業が増えていると見られる。</p> <p>21年度設備投資計画は大企業では前年度比+10.1%。ほぼ前回調査通り(+9.6%)の結果となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家計部門について、8月小売業販売額は前年同月比▲3.2%と6ヶ月振りの減少。感染再拡大や8月中旬以降の天候不順も影響した。 ・製造部門では8月自動車生産が前月比▲13.7%と6か月振りの大幅減、一方機械受注は+34.5%と4か月連続の増。 ・建築部門では6月の全建築物建築着工床面積は9,537千㎡と6か月連続の前年同月比増となった。 <p>（海外）・感染症抑制状況や経済対策により国・地域ごとに濃淡はあるものの、総じて回復している。一方で、供給面等によるコストプッシュ型のインフレが経済対策の希薄化や金融市場の混乱をもたらすリスクがある。さらには変異株再拡大や中国情勢（不動産過剰債務、電力不足、米中関係）等、不確実性は大きい。</p> <p>米国：経済対策による力強い回復過程は継続も、供給制約からインフレが進み、経済対策の希薄化や金融市場の混乱を招く恐れがある。</p> <p>中国：正常な経済成長に向かいつつあるが、不動産分野の過剰債務問題や製造業での電力不足などが、リスクとして顕在化している。</p> <p>ASEAN：域内各国の経済回復は進むが、感染再拡大による行動制限等の規制が、製造業や建設業の活動に影響を与えている。</p> <p><国内鉄鋼需給></p> <p>（生産）・21年9月の粗鋼生産は814万t（前年同月比+26%）と前年同月比で7ヶ月連続の増加となった。</p> <p>（出荷）・8月の普通鋼国内向け出荷は304万トン（前年同月比+7%）で6ヶ月連続の増。輸出向け出荷は191万トン（同+9%）と4ヶ月連続の増加となった。</p> <p>（在庫）・8月末の普通鋼鋼材国内向け在庫は560万トン（前月比+22万トン）、3ヶ月ぶりの増加。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月末の薄板3品在庫は410万トン（同+21万トン）と3ヶ月連続の増加。 ・8月末の厚板シャープ在庫は36万トン（同▲0万トン）と2か月連続の減少。
2. 需要産業動向	<p>〔建築〕・8月の新設住宅着工戸数は7.4万戸（前年同月比+7.5%）で6ヶ月連続の増加。持家・分譲・貸家いずれも増加。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非住宅着工床面積は313万㎡（同+14.6%）で6か月振りの減少。公益事業や公務文教で減少した。 <p>〔自動車〕・9月の国内販売（輸入車除く）は28.4万台（前年同月比▲33.9%）。3か月連続の減少。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月の完成車輸出は25.2万台（同▲6.6%）で6か月振りのマイナス。欧米向けで減少が見られた。 ・8月の四輪生産（速報）は48.0万台（同▲13.7%）で6ヶ月ぶりのマイナス。 <p>〔造船〕・9月の新造船受注量は94万GTの受注、6月末の手持工事量は1,751万GTと6月以降1,800万Gt前後を安定して推移。</p>
3. 輸出入動向	<p>〔輸出〕・8月の全鉄鋼輸出は295万トン（前年同月比+14%）で4ヶ月連続の増加。中国は減少したが、米・韓・ASEAN等で増加した。</p> <p>〔輸入〕・8月の鋼材輸入（普通鋼・ステン鋼・その他合金鋼計）は35万トン（前年同月比+4.6%）で3か月連続の増加。</p> <p>韓国は8か月振りに減少したものの、台湾、中国が増加した。</p>
4. 海外市場動向	<ul style="list-style-type: none"> ・8月の世界粗鋼生産は1億5,680万トン（前年同月比▲1.4%）と13ヶ月ぶりの減少。 ・9月の中国粗鋼生産は7,375万トン（同▲20%）。環境規制と見られる粗鋼生産減産の動きが本格化。 ・9月の中国鋼材輸出は492万トン（同+29%）。10か月連続の増加。1-9月累計で前年同期比+31%